



Good Wood Communication!

かけがわの森から

先進地オーストリア林業に学ぶ ～海外視察研修報告～

職員の尾崎です。昨春秋、林業先進地であるオーストリア林業を視察する貴重な機会をいただきました。6日間に及んだ視察研修について報告させていただきます。

なぜオーストリア?

オーストリアは林業・木材産業を観光に次ぐ国の基幹産業としています。急斜面地が多いにもかかわらず最先端の森林管理・森林経営を行っていて、その考え方やノウハウは日本林業が参考にすべきことが多いです。**どんなところを視察した?**

視察先は、山の集材現場、製材所、森林組合的組織、森林・林業の研修所、パレット製造工場、木材チップボイラーと熱供給システム等多岐にわたりました。その中で最も印象に残った3点について報告します。

① 森林計画・森林経営とフォレストラー(森林官)制度

オーストリアでは林業の基本である「森林の成長分を収穫する」を推進し、計画的な森林経営が行なわれていました。そして、この仕組みを支えているのが「フォレストラー(森林官)」制度でした。

フォレストラーは国家資格者で、一定面積の森林管理・経営には必ず配置することが法で義務付けられています。そして森林管理、施業の計画、流通コーディネートを担当しています。そして、フォレストラーは社会的認知度が高く、自然と共生を実践する職業として市民からは敬意を持たれているそうです。

また、オーストリアでは森林技術者の養成にも力を入れていました。国内にいくつかのフォ

レストラー学校や森林研修所があり、理論と実践両面から専門技術者の養成と一般市民への知識の普及を同時に行っていました。



国民の森林への興味・関心の高さ、資格をもったフォレストラーが適切に森林管理・経営に関する制度が、国の基幹産業である林業を支えている、オーストリア林業からはそんな印象を受けました。今後、日本でも技術者養成、資格制度の整備、市民の森林林業への理解促進が大切になると感じました。

② 経営体の規模・地形に合った先進的集材システム

現場では様々な集材システムを見学することが出来ました。大規模経営体(林業会社)では、タワーヤード(架線とタワーとのセット)とプロセッサ(造材機械)がひとつのトラックに収まった、最先端のコンヒマシオンを使って集材作業を行っていました。

一方で、小規模経営体(林家)ではよく農家に普及しているトラクターにウィンチやクラブル(掴む機械)や転倒防止機能を付けて集材をしていました。経営規模や地形に応じて施業方法・機械選定を適切に選択していくことは、当組合でも、とても重要なことだと思います。



写真右上 森林研修所
写真右中 伐採手順を学ぶ
写真右下 小規模所有者の組合事務所
写真左上 伝統ある建物
写真左中 小規模皆伐地が所々に見える

③ 小規模森林所有者をサポートする仕組み

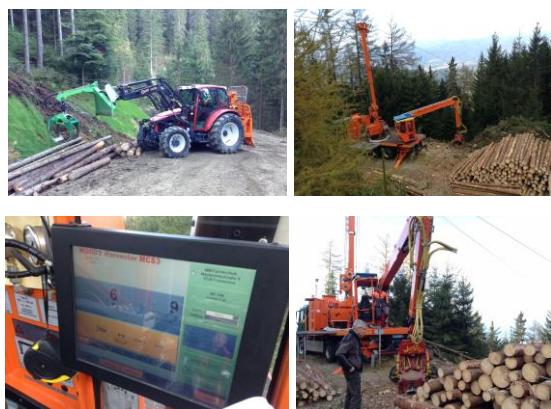
オーストリアには、小規模森林所有者をとりまとめ、施業提案や伐採業者の紹介、流通コーディネートを行っているフルト・ヴァー・バンドと呼ばれる組織がありました。この組織の会員は会費を払い、サービスを受けています。

サービスの内容は会員が出荷する木材の流通量をまとめることで、大規模製材工場と単価交渉をして有利販売を行ったり、高品質材の入札会を行ったりしています。他にも会員向けのイベント実施も行います。

これはまるで、日本の森林組合だと感じました。似たような役割を果たしているこの組織からは学ぶことがまだまだありそうです。



オーストリアには、小規模森林所有者をとり



写真右上 トラクター集材
写真右中 コンヒマシンの運転席モニター
写真右下 コンヒマシンのウィンチ付き
写真左中 コンヒマシンの材を引き上げその場で造材
写真左上



研修終盤、木材の可能性を示そうと建築された、世界で一番高い木製タワーに上りました。この貴重な機会を糧に、さらに森林・林業・木材の可能性を求め続けていきたいと思えます。



榛村航一組合長の 元気もりもり (森・森) 通信 第4回

沖縄の透き通った海に想いごと

先日、沖縄研修旅行に参加し、初めての沖縄訪問を果たしました。以前より沖縄の基地問題 News に触れるたび、沖縄住民と直に話してみたいと思っており、今回そのチャンスを得ることができました。

私は地元の方々に必ず「辺野古問題に対する本音は？」と尋ねました。すると返ってくる答えの殆どが「本音はもう新しい基地は要らないーけどしょうがない」というものでした。現在、日米両政府の対応が、沖縄県民の民意を尊重しているとは思えないのは私だけではないように思います。

辺野古の綺麗な海・大自然に思いを馳せながら、私は次のように考えます。

翁長知事が建設中止を安倍首相に直訴しても日本政府が聞く耳をもたない場合、知事本人が抗議デモの先頭に立ち、その姿をアピールすれば、その信念の行動は辺野古移転に反対する全国の国民の心に届くのではないかと思います。

また、米国政府に対し辺野古移設反対の申し入れをすれば、オバマ大統領に影響力を持ち、環境保護派で捕鯨に反対するほどの動物愛護者であるケネディ大使が、シユコンの生息地を奪い、サンゴ礁を破壊する基地建設を容認できるとは思えません。

そして、それでも基地移転が強行される場合、国連に沖縄住民の想いを訴え世界へ発信すれば、住民の声を無視し強硬策をとる国家権力に強い憤りと不信を抱いている今の世界は、きっと沖縄の味方になってくれると思います。

みなさんそれぞれ沖縄問題に対しいろいろな意見があるのは承知しておりますが、あくまでも私見を言わせていただければ、あらためて沖縄だけに基地負担をお願いし、あとは知らんぷり、というのは無責任な態度だと感じます。日本人として沖縄のことをもっと自分の問題として捉え、みなさんで真剣に考え議論する必要があるのではないかと、自然豊かな掛川の森林(もり)を眺めながらそう思わずにはいられなかった今回の沖縄訪問でした。



平成 28 年度 4 月採用 職員募集について

掛川の森林の未来をつくる 若い職員を募集します!



- 募集人員 1~2名
- 採用年月 平成28年4月
- 仕事の内容 森林管理・森林経営に関する現場業務および現場管理業務
- 年齢 26歳くらいまで
- 必要な資格等 大学卒(専攻は不問)
- 就業時間 8:00 ~ 17:00
- 休日 日曜・祝日・第1・3・5土曜
- 初任給 19万5千円
- 賞与 年2回あり
- 手当 通勤手当等
- 応募方法 まず電話連絡
0537-25-2111 (担当 尾崎)
その後履歴書をお送りください
- 選考日程 平成27年7月下旬
- 選考方法 書類選考および面接選考
- 応募締切 平成27年7月10日

森の仕事の現場より ひと・もの・おもい



明るくて暖かい春の日差しを感じるようになってきたある日、植林作業の現場を訪れた。

植林現場は、山の斜面の伐採跡地。切り株が無数に点在し、その株の脇に新しい苗木が植えられていく。現場から見える大尾山の山並み、民家や茶畑の緑溢れるのどかな里の風景、そして森で植林する人の様子は、心の和む美しい光景だった。

職員の方に少し話を伺ったところ、森林組合の仕事の中で、植林する仕事は「1年にほとんどない」希少な機会だという。そして、伐採するまでには60年ほどの時間がかかり、その間の手入れも大切に「一度手入れをやめると元に戻しにくい。曲がった木は元に戻せないし…」という。

植えて育てて60年。子育て同様に大きくするには手間も時間も費用もかかるけれど、植林をすることで過去や先人の苦勞に思いが至り、未来と後世へ森をつなげることができる。

この日植えられたヒノキが伐採される頃には、地域の風景や私たちの暮らしはどのようになっているのだろう。この日感じた美しい森と風景、そして人の営みが60年後も変わらずにあってほしい。

鈴木渉 | スタジオやまもり

榛村純一 前組合長の銅像が建立されました



掛川市森林組合前組合長で掛川市長を7期28年勤められ、掛川市発展の礎を築かれた榛村純一氏の銅像が掛川市役所に建立されました。

市民・団体の寄付により建立されたものですが、目標額を大きく上回る成果だったとのこと。

除幕式には、ご本人が奥様とともに出席され、「これまでの掛川市の発展は天の時、地の利、人の和のお陰です。これからは報徳と美しい森林づくりに尽くしたい。」とお言葉を述べられました。

組合員さまへのお願い

相続等で所有山林に移動(相続・取得・売却)が生じた際は森林組合へご一報ください。組合員名簿および出資証券の名義変更が必要です。

ひとこと 「どれが一番強い?」と対決中。TVゲームもいいですが、こんなぬくもりある木のおもちゃもいいですね~これは何年前か、西郷で伐採させていただいた檜の木で作ったコマです。森林組合OB、居尻の中山忠一さんの作品です。この「檜のコマ」は森林組合でも取り扱い中。お孫さんへのプレゼントにいかがですか?問い合わせは購買担当 角皆まで!

